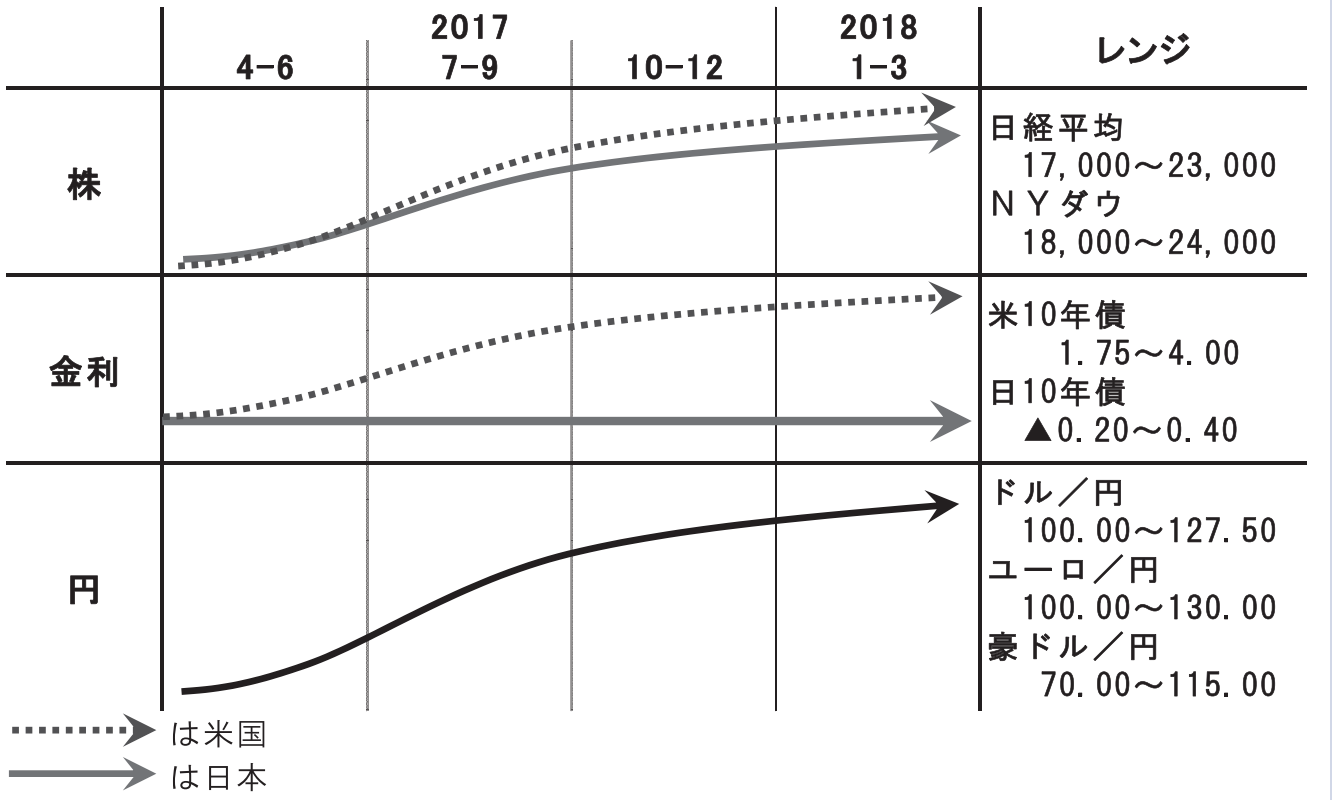
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

（4月5日時点）

Ⅰ. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	輸出の持ち直しや在庫調整の進展等を背景に景気は持ち直している。先行きも、輸出増加が続くことに加え、企業収益の改善から設備投資が増加することや、経済対策の効果が発現することで景気が押し上げられるだろう。景気は回復感を徐々に強めていく可能性が高い。
② 米国	米国経済は、17年1Qに税還付の遅れなどによって弱い成長になったものの、雇用・所得の増加、資産残高の増加等を背景とした個人消費の再加速や住宅市場の回復の持続によって、景気拡大が継続する公算が大きい。また、景況感の改善や企業収益の拡大を受けた設備投資の増加を背景に、2Q以降経済成長は加速すると見込まれる。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、政治情勢に対する不透明感があるものの、①金融緩和の効果浸透、②世界景気の回復持続、③雇用・所得環境の持ち直し、④過度な財政緊縮姿勢の後退を背景に、緩やかな拡大基調を持続する公算が大きい。但し、原油高による家計や企業のコスト負担増加の影響もあり、景気の拡大ペースはやや鈍化しよう。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の底入れを反映して外需に回復感が出ている。他方、米トランプ政権による政策運営の不透明感は新興国の資金動向に影響を与えるなど、その動向に左右されやすい。先行きも外部環境に揺さぶられる展開が続くとみられ、引き続き警戒が必要な状況にあるものの、国際金融市場が落ち着きを取り戻す展開が続けば、比較的堅調な景気拡大を実現することは可能と見込まれる。

Ⅱ. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



（注）記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。